

協同のひろば

クリーンエネルギーフォーラム(CEF) 参加を訴えます

勝部 欣一 (東京都/CEF理事長・協同総研副理事長)

96年9月7日池袋芸術劇場に生活者、学者、研究者の同志約150人が相集まり、クリーンエネルギーフォーラムの創立総会を行いました。この総会には岩垂環境庁長官はじめ、自民、社民、さきがけ、新進、共産の全党からはげましのメッセージが寄せられました。

1992年リオデジャネイロで開かれた世界環境サミットには私も参加しましたが、人類が未だ経験したことがない、自らの文化文明が導いた地球温暖化やオゾン層の破壊などが、全世界の共通課題となり (think globally)、その解決に向かって各国各地域で具体的行動をしよう (act locally) ということが決議されたのです。

しかし、昨95年9月にアフリカ、ジンバブエで世界太陽エネルギー学会があり、それに参加したとき同国のマガベ大統領が1時間もの演説の中で、リオの決議は充分実行されていない。各国各地域がローカルエネルギー (太陽光、風力、小水力、バイオガス) 等を充分使って、食糧の自給も進めるべきであることを強調して大きな感銘を与えました。

その後同年9月マンチェスターで開かれた国際協同組合同盟 (ICA) 100年記念大会でも、持続可能な社会をつくるのが協同組合の新しい方針となったことも重要です。

しかしその12月東京で開かれた新エネルギー財団の国際シンポジウムでは、アメリカの太陽エネルギー推進者で著名なキャッシュマン氏が「中国はじめアジアの発展しつつある国々が、工業や自動車を今のままの方式で増加させれば、欧米の例でも見られる通り日本が一番酸性雨の被害を受ける。それだけでなく大量のCO₂やメタンガスが

1週間のうちには地球を回り、地球全体の温暖化を進行させる。この事態には欧米がいくら叫んでもだめで、何といても日本が最も先進的なクリーンエネルギーの社会体系をつくって範を示し、その技術を提供すべきである。」と提言しましたが、これには大変動かされました。

更に昨年とくに国連気象会議 (IPCC) が発表したとおり、このままで進めば、2100年には地表の温度が2%上がり、沿海の水位上昇による高潮、高波の被害増大だけでなく、とくに穀物類の生産が半減となり、一方人口の増加とぶつかってゆゆしい事態となることが新しく警告されたのです。

明け97年末京都でこのIPCCの総会が開催されることが決まったのですが、これを国民運動としても進めよ提言をする必要があると思います。

このこともあってか、この数ヶ月の新聞論調や解説、それに広告までもが、大々的にエネルギー問題を取り上げるようになってきました。

かねてより太陽エネルギー学会や生協の家庭エネルギー研究会と一緒に運動を進めてきた熱エネルギー研究家の斉藤博士、ネパールツアーをふくめ風力の世界的権威である牛山博士、水や空気の大衆的簡易測定を推進指導された天谷博士らの同志的な結集と省エネ、リサイクルなどを推進している日本生協連や各生協、農協のリーダー、広範な事業者、技術者、生活者が相集い、自由で活発な討論を行い運動を推進する場をつくることを決意しこのフォーラムが創立されたのです。

クリーンエネルギーといっても中身は「省エネ、創エネ、リサイクル」の三本柱の総称です。

そして、政策提言も政府、国会、自治体などにとどしどしして行きます。炭素税や原子力政策なども活発に議論をして行きます。身近な創意工夫で成功、失敗の例、コスト問題などをよく持ち寄り、検討し、よりよいものを会員に推奨することも是非やりたいことです。創立総会でも積極的に事業としてやるべきという意見が多くでした。

3ヶ月に1回ゼミナールをやり、国内外の見学ツアーも人々の交流を深めつつ行いたいことです。その成果は内外の情報をふくめ月1回発行原則の会報で会員に知らせます。

海外ツアーは来る11月3～13日(25万円)ネパール環境協同ツアーを行います。今年はとくに電気もこない山岳地帯に住み、毎日1～2時間かかって水を揚げている人々のために、風力と太陽光の発電機、ウオーターハンマーポンプ揚水器をみんなで分担して持っていく予定です。これが成功すれば、アジア、アフリカの山々に住む人々に役立つと思います。

以上のような考えをもとに地道に一つ一つ事業を積み上げたいと思っています。是非有志多数の方が参加されることを心から願っております。

〈 C E F の活動内容 〉

I. クリーンエネルギーを研究、提言、促進します。

1. 省エネ (従来型エネルギーの新利用形態)

- ・クリーンエネルギー自動車
電気、天然ガス、LPG、水素など
- ・コジェネレーション
- ・燃料電池発電 (FC)、発熱
- ・地域総合エネルギー利用、総合エネルギー利用など

2. 創エネ (再生可能エネルギー)

- ・太陽エネルギー
熱 パッシブソーラー、温室、温水供給
光 太陽光発電など
- ・風力 風力発電、風力揚水など
- ・水力 小水力発電、水車、ウオーターハンマーポンプ揚水など
- ・地熱 地熱発電など
- ・バイオマス
バイオガス利用、アルコール燃料利用など
- ・海洋

3. リサイクルエネルギー

- ・排熱 ゴミ焼却発電、工場排熱発電、LNG気化発電など
- ・廃棄物
家庭 厨芥のメタン発酵ガス利用、プラスチックの乾留ガス利用など
排泄物 尿、畜産廃棄物のメタン発酵ガス

利用、コンポストの活用

- ・工場 工場廃液のメタン発酵ガス、木質系廃棄物の燃料化など

II. クリーンエネルギーを普及するための社会・経済システムを研究、提言、促進します。

普及のための問題点とその方向性。

1. 出力密度が小さい

いずれも従来の火力、原子力発電などに比べると1つ1つの発生エネルギーは、小規模です。しかし、逆に集中型ではなく、分散型と考えることで、消費地でのエネルギー自給という新しい社会経済システムを追求します。

2. 供給の連続性、安定性に欠ける

一挙に代替物として考えるのではなく、既存エネルギーとの系統連携によって、無駄なエネルギーをなくす方向を考えます。

3. コストが高い

従来の市場経済原理で考えるのではなく、社会コストや資源問題、地球環境問題の解決という観点を導入します。また、発展途上国においても、今後の開発には、環境重視の原則が必要です。日本が先頭に立って、新しい社会・経済システムを確立し、その技術移転、援助などの普及活動も実施します。

III. 以上の活動を遂行するために国内外での研究、研究ツアー、技術研修、シンポジウムを総合的、分野別に実施します。